様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ５ 月 １４ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４５２０３３７

研究課題名（和文）中世フランス語版ボエティウス『哲学の慰め』の言語地理学的・文献学的語彙研究

研究課題名（英文）Philological and Dialectological Studies on the Vocabulary of De Confortement de Philosophie

研究代表者
松村　剛（MATSUMURA, TAKESHI）

東京大学・総合文化研究科・教授

研究者番号：００２２９５３５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究においては、M. Bolton-Hall によって刊行された中世フランス語版ボエティウス『哲学の慰め』のブルゴーニュ版の語彙を、オーストリア国立図書館に所蔵されている第2642番写本と比較しながら検討した。刊本と各種辞書の記述の誤りを修正しつつ、このテキストがフランス語史と言語地理学にとって興味深い多くの単語を含んでいること、ブルゴーニュに特有の語彙をもつことを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：With this grant-in-aid for scientific research, I studied the vocabulary of the old french "Del Confortement de Philosophie" (adaptation of Boethius' "De Consolatione Philosophiae"), published by M. Bolton-Hall. I compared the publication with the manuscript 2642 of the National Library of Austria, Vienna and observed that the modern edition and dictionaries have diverse faults. At the same time, I certified that this text contains numeros words of great interest for the history of the french language and the geographical linguistics and various words characteristic ot Burgundy.

研究分野：人文学

キーワード：中世フランス語　フランス語史　語彙論　文献学　言語地理学

１．研究開始当初の背景

(1) 本研究は、平成 21・22・23 年度科学研究費補助金基盤研究 (C)「ギヨーム・ギヤール『王朝系譜』の言語地理学的・文献学的語彙研究」（課題番号 21520313）において松村が挙げた成果を継承しつつ、中世フランス語に翻案されたボエティウス『哲学の慰め』のひとつであるブルゴーニュ版を対象にして研究を推進しようとするものとして開始された。それまでの 3 年間の研究は、ギヨーム・ギヤールの韻文年代記『王朝系譜』をとりあげ、19 世紀に作られた不完全な校訂版をフランス国立図書館フランス語写本 5698 番写本との照合によって訂正しつつ、既存の校訂版を無批判に利用したために辞書に混入した間違いを修正し、さらにこの作品の語彙を歴史的かつ地理的な観点から網羅的に検討し、フランス語の歴史と地理においていかに重要な用例がそこに含まれているかを浮き彫りにすることができた。その間、ヨーロッパの学術誌、記念論文集に論考を発表し、中世フランス語のテクストならびにフランス語史関連の研究書、辞書に関する文献学的な批判的読解の作業も進めてきた。

(2) 本研究で対象とするボエティウス (Boethius)『哲学の慰め』(*De Consolatione Philosophiae*) の中世フランス語版は、ブルゴーニュ地方で 13 世紀前半に作られた翻案であり、*Del Confortement de Philosophie* と呼ばれている。『哲学の慰め』の中世フランス語版は 13 世紀前半から 15 世紀末までに作成された 13 点が知られているが、この作品はその中で最古のものであり、オーストリア国立図書館に所蔵されている写本（第 2642 番写本）のみによって知られている。中世フランス語版『哲学の慰め』の研究はあまり進んでおらず、近年ようやく脚光を浴びつつあるのが現状である。たとえば『薔薇物語』(Le Roman de la Rose) 第 2 部の作者として有名なジャン・ド・マン (Jean de Meun) によって 1298 年頃に作られた版はすでに 1952 年に V. L. Dedeck-Héry によって校訂版が作られているが（« Boethius' *De Consolatione* by Jean de Meun », *Mediaeval Studies*, 14, 1952, p. 165-275）、その詳細な語彙研究は 2000 年に D. Billotte によってなされたにすぎない（D. Billotte, *Le vocabulaire de la traduction par Jean de Meun de la Consolatio Philosophiae de Boèce*, Paris, 2000）。しかもこの D. Billotte の研究は校訂版の異本を考慮に入れていない不完全なものであったことは松村がドイツの学術誌 (*Zeitschrift für romanische Philologie*, 118, 2002, p. 251-255) に発表した書評論文で明らかにしたとおりである。

(3) ジャン・ド・マンの版より古い作品であるにもかかわらず、本研究で対象とするブルゴーニュ版は 1997 年に初めて校訂版が出された (M. Bolton-Hall, « *Del Confortement de Philosophie*. A Critical Edition of the Medieval French Prose Translation and Commentary of *De Consolatione Philosophiae* of Boethius Contained in MS 2642 of the National Library of Austria, Vienna », *Carmina Philosophiae : Journal of the International Boethius Society*, 5-6, 1996-1997)。この校訂版には短い序文が添えられ、そこに簡略な言語的特徴が列挙されており、巻末に 3 頁の語彙解説がつけられているに過ぎず、テキストが含む多様な興味深い用例に関する研究はまったくなされていない。本文の校訂自体も、かならずしも信頼がおけるものにはなっていない。

(4) そのため、文献学的な手法に基づいて、フランス語史と言語地理学の観点から注目すべきこの作品の総合的な語彙研究を行う必要性は大きいものであった。

２．研究の目的

(1) 上記の通り、従来の研究に欠落していた要素を補完すべく、ブルゴーニュ版ボエティウス『哲学の慰め』(*Del Confortement de Philosophie*) の M. Bolton-Hall による校訂版とその底本であるオーストリア国立図書館写本第 2642 番とを照合し、校訂版の間違いを訂正しつつ、現在の文献学的な要請に応じた正確な校訂版を作成する作業を行う。

(2) その過程で、テキストに含まれた語彙の網羅的な研究を推進する。その際、言語地図と各種辞書を批判的に活用しつつ、用例の言語地理学的・歴史的意義を明らかにする。F. Godefroy の 10 巻本『古フランス語辞典』(*Dictionnaire de l'ancienne langue française et de tous ses dialectes*)、A. Tobler et E. Lommatzsch の 12 巻本『古フランス語辞典』(*Altfranzösisches Wörterbuch*)、W. von Wartburg が創始した 25 巻本『フランス語語源辞典』(*Französisches Etymologisches Wörterbuch*) におけるボエティウス『哲学の慰め』の中世フランス語版および関連作品の引用を検討し、間違いがあれば訂正しつつ、ブルゴーニュ版が含む単語の初出に着目しつつ、従来のフランス語史の記述を補完する要素を明示することを系統的な語彙集成の作成を通して行う。

(3) ラテン語からフランス語に翻案される過程でどのような語彙が使われたのかをもら的に調査することによって、従来は中世末期の現象として知られていた翻訳文学の流行が、実はより古い時代にすでに行われていたものであることが明らかになり、それに応じて貴重な用例を発見することができるであろうし、地理的な観点からも、ブルゴーニュ地方に特有の語彙の発見を通して、中世フランス語研究の中で比較的手薄なこの地方の語彙研究の補完に貢献できるであろう。

(4) また、ジャン・ド・マン (Jean de Meun) の翻案にはこのブルゴーニュ版を利用した箇所があるため、従来『薔薇物語』(Le Roman de la Rose) の作者が最初に使ったと見なされている単語や表現が、実は彼が下敷きにした作品にすでに見られることも証明できるであろう。それ以外にも、後の時代に作られた中世フランス語版『哲学の慰め』から辞書が引用している箇所をブルゴーニュ版の該当箇所と比較することにより、その表現の異同にも照明をあてることができるであろう。

(5) これらの検討を通して、現在刊行されつつある『古フランス語語源辞典』(*Dictionnaire étymologique de l'ancien français*)（ハイデルベルク大学）に多くの寄与をすることができるであろうし、部分的に改訂版を作成しつつある『フランス語語源辞典』(*Französisches Etymologisches Wörterbuch*)（フランス国立国語研究所）の補足・修正にも役立つであろうし、『フランス語宝典』(*Trésor de la langue française*) 語源項目の再検討をしている TLF-Etym および「幽霊語研究」 Base des Mots-Fantômes（同じくフランス国立国語研究所）にも多数の貢献をすることができるであろう。

３．研究の方法

(1) 上記研究目的を達成すべく、ブルゴーニュ版ボエティウス『哲学の慰め』のテキストに関して、ウィーンのオーストリア国立図書館に所蔵されている写本 2642 番と、M. Bolton-Hall による校訂版 (M. Bolton-Hall, « *Del Confortement de Philosophie*. A Critical Edition of the Medieval French Prose Translation and Commentary of *De Consolatione Philosophiae* of Boethius Contained in MS 2642 of the National Library of Austria, Vienna », *Carmina Philosophiae : Journal of the International Boethius Society*, 5-6, 1996-1997) とを比較検討し、正確なテキストを確定する。

(2) 各種辞書におけるボエティウス『哲学の慰め』の引用を再検討し、それらの解釈の妥当性を文献学的に調査し、間違いがあれば訂正してゆくのと合わせて、ブルゴーニュ版『哲学の慰め』の該当箇所と比較する。とくに、F. Godefroy の 10 巻本『古フランス語辞典』(*Dictionnaire de l'ancienne langue française et de tous ses dialectes*)、A. Tobler et E. Lommatzsch の 12 巻本『古フランス語辞典』(*Altfranzösisches Wörterbuch*)、W. von Wartburg が創始した 25 巻本『フランス語語源辞典』(*Französisches Etymologisches Wörterbuch*) の引用および解釈を批判的に検討し、そこに見られる誤りの影響がどのように語彙研究、フランス語史研究に現れているかを文献学的に調査する。

(3) ブルゴーニュ版『哲学の慰め』に含まれる、歴史的・地理的に注目すべき単語・表現を収集し、この作品の意義を裏付ける点を強調し、フランス語史ならびに言語地理学における従来の知見を補完してゆく。

(4) 1298 年頃に作られたジャン・ド・マンによる『哲学の慰め』とブルゴーニュ版『哲学の慰め』を照合し、前者がいかに後者を活用しているか、その特徴を具体的に検討し、単語・表現のレベルでの異同の研究を通して従来のフランス語史の知見を補足してゆく。

(5) 地方語の問題に関して、言語地理学の成果を活用すべく、研究書・論文を調査する。その研究によってブルゴーニュ版『哲学の慰め』の作者が使用している地方語を浮き彫りにしてゆく。

(6) 関連するフランス語作品を収集し、それらを批判的に検討し、補足的な情報を収集する。

４．研究成果

(1) ブルゴーニュ版ボエティウス『哲学の慰め』を刊行した M. Bolton-Hall による校訂版 (M. Bolton-Hall, « *Del Confortement de Philosophie*. A Critical Edition of the Medieval French Prose Translation and Commentary of *De Consolatione Philosophiae* of Boethius Contained in MS 2642 of the National Library of Austria, Vienna », *Carmina Philosophiae : Journal of the International Boethius Society*, 5-6, 1996-1997) は、底本であるウィーンのオーストリア国立図書館所蔵第 2642 番写本と比較した結果、正確にテキストを理解していないと思われる箇所が見つかった。

(2) ブルゴーニュ版ボエティウス『哲学の慰め』の語彙を歴史的・地理的に興味深い単語・表現という観点から研究し、従来の知見を刷新するような結果を出すことができた。その成果を « Remarques lexicographiques sur une traduction de la Consolation de Philosophie de Boèce : version bourguignonne de la 1re moitié du 13e siècle », *Dialectologie et étymologie galloromanes*, Strasbourg, 2014 と題する論文で発表した。

(3) 1298 年頃に作られたジャン・ド・マンによる『哲学の慰め』とブルゴーニュ版『哲学の慰め』を照合し、前者が後者を活用している箇所を明らかにすることができた。その結果、従来のフランス語史の知見を補足するような成果を挙げることができた。

(3) このように、フランス語史ならびに言語地理学の観点から、従来の知見を補完する情報を収集できたことで、松村が校閲者として参加しているハイデルベルク大学の『中世フランス語語源辞典』 (*Dictionnaire*

étymologique de l'ancien français)、ナンシーのフランス国立国語研究の「『フランス語宝典』語源項目の再検討」(TLF-Etym) および「幽霊語研究」(Base des Mots-Fantômes) にとって有益な用例を多数見つけることができ、今後のフランス語史研究の発展に意義ある成果と言える。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 11 件）
① 松村剛 « Sur la ponctuation en musique », dans *FRACAS*, 15, 2015, p. 6-9. 査読有

② 松村剛 « Compte rendu : Robert le Clerc d'Arras, *Les Vers de la Mort* et *Li loenge Nostre Dame* », dans *Revue de Linguistique romane*, 78, 2014, p. 577-582. 査読有

③ 松村剛 « Grimod de La Reynière et la lexicographie », dans *Revue d'Etudes Françaises*, 19, 2014, p. 75-80. 査読有

④ 松村剛 « Sur quelques mazarinades attribuées à Paul Scarron : remarques lexicographiques », dans *FRACAS*, 12, 2014, p. 1-16. 査読有

⑤ 松村剛 « Les premiers contes de Marcel Schwob et la lexicographie », dans *Spicilège. Cahiers Marcel Schwob*, 7, 2014, p. 41-50. 査読有

⑥ 松村剛 « Sur trois éditions des *Saisons* de Saint-Lambert publiées en 1769 », dans *FRACAS*, 11, 2014, p. 1-17. 査読有

⑦ 松村剛 « Emile Guillaumin et Valery Larbaud autour d'*Allen* », dans *Les Cahiers Bourbonnais*, 58, 2014, p. 51-56. 査読有

⑧ 松村剛 « Sur quelques régionalismes du marquis de Sade », dans *Language, Information, Text*, 20, 2013, p. 27-34. 査読無

〔学会発表〕（計 0 件）

〔図書〕（計 2 件）
① 松村剛ほか *Dialectologie et étymologie galloromanes*, Strasbourg, Editions de linguistique et de philologie, 2014, 444 pages.

② 松村剛ほか *Ki bien voldreit raisun entendre*, Strasbourg, Editions de linguistique et de philologie, 2012, 337 pages.

〔その他〕（計 3 件）
① ハイデルベルク大学『中世フランス語語源辞典』(*Dictionnaire étymologique de l'ancien français*) 校閲 (http://www.deaf-page.de/index.php)

② フランス国立国語研究所（ナンシー）「『フランス語宝典』語源項目の再検討」(TLF-Etym) 校閲 (http://www.atilf.fr/tlf-etym/)

③ フランス国立国語研究所（ナンシー）「幽霊語研究」(Base des Mots-Fantômes) 校閲 (http://www.atilf.fr/MotsFantomes/)

６．研究組織
(1)研究代表者
松村　剛（MATSUMURA, Takeshi）
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号：００２２９５３５